



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



この作業場でいろいろな製品が作られています



行李鞆や柳籠バッグなどの製品



寺内卓己さん(57歳)出石町魚屋

杞柳細工を一つ一つ手作業で編み上げ、 伝統の技を今に残します!!

「柳行李・豊岡杞柳細工」の良さを伝えるため、日々杞柳細工作りに没頭する男性を紹介します。

杞柳細工への興味

寺内卓己さんは、小さいころから、両親がコリヤナギで籠等を作っている工程などを見ているうち、杞柳細工に興味を持ち始めました。

実際に作業をするようになって、両親から教えてもらったり、腕の良い職人に指導してもらったりして技術を習得していききました。そして、いずれは独立して店を持ちたいという思いを抱くように。

寺内さんは、27歳のころ、当時から観光客でにぎわっていた出石に店を構えることを決意し、出石町魚屋に「たくみ工芸」を開きました。

一番の苦労は材料作り

寺内さんは、コリヤナギの栽培から仕上げまでの全てを自分で行っています。柳行李、行李鞆、皮籐バッグ、柳籠バッグなどは、一つ一つ手作業です。作る上で一番苦労することは、コリヤナギの栽培、つまり材料作りといえます。寺内さんは、豊岡地域に約200坪の畑を持ち、コリヤナギを育てています。「やはり材料が良ければ良いものができます」と笑顔で話し

ます。

寺内さんにやりがいを感じる点を聞くと、「コリヤナギで鞆を作り、お客さんに渡すと大変喜んでもらえます。また、行李鞆は個性的で、編み上げていても楽しいですし、イメージどおりのものができたときはうれしいです」と話します。

テレビや雑誌に取り上げられることも多い寺内さんは「テレビ放映があった日以降は、しばらく電話が鳴りっぱなしでした」とメディアの影響の大きさに驚いたこともあったと言います。

また、平成24年3月には、「平成23年度伝統的工芸品産業大賞グランプリ」を受賞。「全く予想していなかったの、受賞の報告を聞いてびっくりしました」と当時のことを振り返ります。

豊岡で杞柳細工を残すために

寺内さんは、5、6年ぐらいい前から豊岡の杞柳細工の技術を残したいとの思いを強くし、そのころから弟子を育てるようになりました。弟子の多くは市外で暮らす女性です。月に一度は弟子のところ

出向いて指導しています。一から職人を育てるには約5年かかるという、「人を育てるには大変な労力を費やします」と笑いながら話す寺内さん。

「私が杞柳細工を作るのをやめると豊岡から職人がいなくなってしまう。何とか伝統工芸を後世に伝えたい」という使命感が、今日まで作り続けている原動力になっています。現在は、寺内さんのお子息が杞柳細工の修業に励んでいます。

10月は横浜で行う杞柳細工の実演販売の準備に追われる日々でした。普段は積極的に地区行事にも参加している寺内さんですが、「最近忙しくて、なかなか地区行事に参加できていません」と申し訳なさそうに話します。

寺内さんは「新しい土台を築くことが大事です。豊岡で杞柳細工を残すため、豊岡で職人を育てることが、これからの一番の課題であり、目標です」と力強く語っていました。 ※職人を希望する方を募集しています(内職含む)。申込みは寺内さんまで。

☎ 52-3280

ま ち の 話 題

出石伝統的建造物群保存地区 講演会&修理現場見学会開催

9月28日、出石伝統的建造物群保存地区「でんけん講演会」(全国伝統的建造物群保存地区協議会近畿ブロック研修会実行委員主催)が開催されました。講師の柳七郎さんは「優れた町並みを残すことは先人の心を残すこと。まちづくりは目覚めた住民意識により道が開かれる」と、飛騨市古川町の取組みを語りました。

講演後、参加者は、修理現場5カ所で、出石の特色である出格子やすり上げ戸の痕跡などを見学しました。また、伝統と現在の暮らしを両立させる修理の工夫などの説明を受けました。



▲大きなボールを落とさないように協力して走る園児

日高地域の5歳児が大集合 第31回日高町5歳児運動会を開催!!

10月3日、県立但馬ドーム(日高町名色)で、第31回日高町5歳児運動会(豊岡市日高保幼小連絡協議会主催)が開催され、町内の認定こども園・保育園・幼稚園の11園に通う156人の園児が参加しました。

この運動会は、日高地域の5歳児の親睦を深め、健全な心身の育成を目指しています。園児は、所属する園に関係なく青・赤・黄・白の4チームに分かれて、元気いっぱいダンスや綱引きなどを披露しました。初めて顔を合わせる園児も「新しい友達と仲良くなれてうれしい!」と笑顔があふれていました。



▲説明を聞きながら、修理現場を見学する参加者

笑顔の輪

楽しく学んで人生を豊かに!
楽しく能を知る会

日本の誇る伝統芸能であり、先人たちの豊富な経験と知恵の結集である「能楽」。

「楽しく能を知る会」は、「難解で退屈なもの」という先入観を持たれがちな能楽を、楽しく、分かりやすく学ぶことで文化の素養を高め、生き方や生活の充実を図ることを目的とした会です。



▲伊勢平家謡蹟にて

その歴史は古く、誕生は昭和60年にさかのぼります。きっかけは、城崎町文化協会の「能楽入門講座」。芸や技術発表が中心となっていた文化協会の事業に、文化理論的な事業を組み込もうという発案で試行した講座で、その受講者が中心となって活動を開始しました。活動は年4回。会員同士の交流と情報交換を目的とした「総会」、1泊2日から2泊3日の旅程で、全国のゆかりの地を巡る「能・謡蹟旅行」、能楽研究者や能楽師、能面師など

近年は、特に若手の入会を期待しているとのこと。会長の坂田文一郎さんは「国際化が進む中、若い方に自国の文化を見つめ直してもらい、『能』をきっかけに、『和』の魅力を世界に向けて紹介してもらいたい」と思いを熱く語りました。入会希望の方は、坂田さんまで。☎32-2198

活動を控えめですが、内容はとても充実しており、また、無理のない活動回数のため、気軽に楽しく続けることができると好評です。

現在の会員数は22人。市内を中心に市外にも活動の輪が広がっています。老若男女を問わず、自分のペースで長く続けることができると大きな魅力です。